



沖縄総合事務局 広報誌／第370号

群星

【むりぶし】

3月4日 2017
月号

隔月発行

March
April



インタビュー

地域を広告する仕事

デザイン事務所
アイデアにんべん

特集

伝統的工芸品産業の新しい動き

残波大獅子
(読谷村)

読谷村残波にある高さ7mの巨大シーサー。沖縄で最大のシーサーで、昭和60年、金城実氏が中心となり、中国との国交文化を後世に伝えるため、製作されました。

私にとっては、子どもの頃に家族でよく行った思い出の場所。当時の写真が今でも残っていて、大人になった今でも懐かしい記憶が蘇ってきます。

レストランや遊具のほか、ヤギなどに餌をあげることでも、お子さんも喜ぶ場所です。ドライブをしながらぜひ訪れてみてはいかがでしょう。

撮影：沖縄総合事務局 島袋あずさ

きんゆうの「お得ガイド」

6

金融リテラシー 〔教えて「金融監督課」〕

現代の社会では、誰であっても、生涯にわたって様々な金融商品と関わりを持つこととなります。金融に関する知識と判断力(金融リテラシー)を身につけることは、社会人として経済的に自立し、安心かつ豊かな生活を送るために必要な生活スキルを高めることでもあります。

財務部金融監督課では、金融リテラシーを身につけてもらうため、自治会、各種団体の会合、学校の授業などにお伺いし、皆様のご要望に基づくテーマについて、分かり易くご説明いたします。どうぞお気軽にお問い合わせください。

沖縄総合事務局 出前講座のご案内

教えて『金融監督課』

講座メニュー

- 「金融」の仕組みについて!
- 身近で起こる金融トラブル!
- 多重債務ってなに?

金融ガイド



学校の授業で



地域の高齢者の集まりで

お問い合わせ先 沖縄総合事務局 金融監督課
電話：098-866-0095

Muribushi CONTENTS

2017

3月

4月号

- 1 平成29年度 沖縄振興予算(案)
- 5 インタビュー 地域を広告する仕事
デザイン事務所 アイデアにんべん
- 8 特集 伝統的工芸品産業の新しい動き
- 10 なかゆくい 多くの人が利用しやすい官庁施設をめざして
- 12 仕事の窓 1 管内経済情勢報告(平成29年1月)
- 14 仕事の窓 2 国営伊江地下ダム及び伊江村の特別展示と「散水式」
- 15 仕事の窓 3 琉球泡盛を海外へ
～沖縄国際ハブクラスターでは琉球泡盛の海外展開をサポートしています～
- 16 仕事の窓 4 公共交通事故被害者等支援フォーラム
～「公共交通事故被害者等支援」の取組～
- 17 内閣府だより 沖縄ナイト in 東京、58KACHA-SEA
- 18 局の動き
 - 〔財務部〕 金融トラブルから身を守るためのシンポジウム
 - 〔財務部〕 消防訓練で廃止宿舎(前田住宅)を活用!
 - 〔財務部〕 教えて「金融監督課」進行中!
 - 〔農林水産部〕 活躍する農業女子による農業の魅力と可能性を伝える講演会
 - 〔農林水産部〕 農福連携推進沖縄ブロックセミナー
 - 〔経済産業部〕 「省エネルギー月間(2月)」のイベント
 - 〔経済産業部〕 南部安全衛生連絡協議会が発足!
 - 〔運輸部〕 船員の特定最低賃金が改正されます

本誌タイトルについて

群星(むりぶし)とは、沖縄の方言で「昴星(すばる)」のことで「ぶりぶし」、「むるぶし」とも呼ばれています。



平成29年度沖縄振興予算(案)

～沖縄県民の暮らしの向上を図り、地方創生のモデルとなることを目指して3,150億円を計上～



- ・沖縄型産業中核人材育成事業
- ・沖縄国際物流拠点活用推進事業
- ・沖縄力発見創造事業

沖縄への企業誘致、国際物流拠点を活用した先進的なものづくり産業などの創出、生産性を向上させる産業人材の育成などを通じ、産業イノベーションの創出を図るため、一〇・六億円を計上しています。

沖縄産業イノベーション創出事業

成長するアジアの玄関口に位置付けられるなど、優位性と潜在力を活かし、日本のフロントランナーとして経済再生の牽引役となるよう、引き続き、国家戦略として、沖縄振興を総合的・積極的に推進していきます。



沖縄離島活性化推進事業

厳しい自然的社会的条件に置かれている沖縄の離島市町村の先導的な事業を支援するため、一〇・八億円を計上しています。



開設された子供の居場所の様子

- 沖縄の将来を担う子供達の深刻な貧困に関する状況に緊急に対応するため、沖縄の実情を踏まえた子供の貧困対策事業を、モデル的・集中的に実施するため、一一・〇億円を計上しています。
- 主な事業内容
1. 子供の貧困対策支援員の配置
実績(二〇一人 平成28年12月1日現在)
 2. 子供の居場所の運営支援
実績(二二〇箇所 平成28年12月1日現在)
- ・地域の実情に応じて、食事の提供や生活指導、学習支援を行う子供の居場所の運営を支援

沖縄子供の貧困緊急対策事業

公共事業関係経費等

沖縄の観光や日本とアジアを結ぶ物流の発展、県民の暮らしの向上を支える道路や港湾、空港、農林水産振興のために必要な生産基盤などの社会資本の整備とともに、学校施設の耐震化や災害に強い県土づくりなどを実施するため、国直轄事業及び地方公共団体などへの補助事業に係る一四二九億円を計上しています。

道路整備の主要事業

○小禄道路（那覇空港自動車道）
事業区間…那覇市鏡水～豊見城市名嘉地
延 長…五・七km
車線数…4／4
事業主体…沖縄総合事務局



完成イメージ（豊見城・名嘉地IC付近）

○浦添北道路（沖縄西海岸道路）
事業区間…宜野湾市宇地泊～浦添市港川
延 長…二・〇km
車線数…2／6
事業主体…沖縄総合事務局



浦添北道路（牧港高架橋）工事状況



那覇港浦添ふ頭地区臨港道路工事状況

港湾整備の主要事業

○那覇港浦添ふ頭地区臨港道路（浦添線）整備事業
整備内容…臨港道路（延長二・五km）
事業主体…沖縄総合事務局
○石垣港旅客ターミナル整備事業
整備内容…岸壁（9m）（延長三四〇m）
泊地（9m）、防波堤等
事業主体…沖縄総合事務局、石垣市



石垣港旅客ターミナル完成イメージ

那覇空港滑走路増設事業

東アジアの中心に位置する沖縄の優位性・潜在力を生かすために必要不可欠なインフラづくりであり、「強く自立した沖縄」の実現に向けた起爆剤の役割を担っています。
平成31年度末の供用開始に向け、平成29年度も引き続き用地造成などを推進していくため、所要額三三〇億円を計上しています。



那覇空港新滑走路完成イメージ

農業農村整備の主要事業

○宮古伊良部地区(かんがい排水事業)

事業期間…平成21～35年度(予定)

主な施設…地下ダム新設2ヶ所、貯

水池新設1ヶ所、揚水機場新設

6ヶ所、用水路新設五五km

○石垣島地区(かんがい排水事業)

事業期間…平成26～37年度(予定)

主な施設…ダム改修5ヶ所、

頭首工改修3ヶ所、揚水機場新設・

改修6ヶ所、用水路新設・改修一〇五km

○宮古地区(国営施設応急対策事

業)【新規地区】

事業期間…平成29～32年度(予定)

主な施設…パイプライン改修六四km



底原ダム(石垣市)

沖縄振興交付金事業

沖縄の実情に即してよりの確かつ効果的に施策を展開するため、沖縄振興に資する事業を県が自主的な選択に基づいて実施できる一括交付金として、一三五八億円(ソフト交付金六八八億円・ハード交付金六七〇億円)を計上しています。

駐留軍用地跡地利用の推進

平成二十七年三月末に返還された西普天間住宅地区跡地における国際医療拠点構想の具体化に向けた取組や、拠点返還地跡地利用推進のための交付金を引き続き計上するなど、駐留軍用地の跡地利用の推進を図るため、十二・五億円を計上しています。

北部振興事業

県土の均衡ある発展を図るため、北部地域の連携促進と自立的発展の条件整備として、産業振興や定住条件の整備などを行うため二五・七億円を計上しています。

沖縄科学技術大学院大学(OIST)

世界最高水準の教育・研究を行い、イノベーションの国際拠点となるため、新たな研究棟の建設や新規教員の採用などOISTの規模拡充に向けた取組を支援するとともに、OISTなどを核とした産学の相互連携システム形成の進展を図るため、一六七億円を計上しています。



第4研究棟(完成イメージ)

交通環境イノベーション事業推進調査

沖縄の深刻な交通渋滞への取組の一環として、自家用車に過度に依存しない、住民にも観光客にも利用しやすくかつ魅力的な交通環境の創造に向け、自動運転などの最先端技術も活用した戦略的な展開を図るための調査を実施するため、三・〇億円を計上しています。



沖縄の道路渋滞対策と新たな交通環境を考える有識者懇談会で挨拶をする鶴保沖縄担当大臣

平成29年度内閣府沖縄担当部局予算(案)

(単位: 百万円、%)

事 項	平成29年度 予算(案)	前年度 予算額	対前年度比	
			増△減額	比率
1 沖縄振興交付金事業推進費	135,837	161,291	△25,454	84.2
1) 沖縄振興特別推進交付金	68,835	80,635	△11,800	85.4
2) 沖縄振興公共投資交付金	67,001	80,655	△13,654	83.1
2 公共事業関係費等	142,917	142,325	592	100.4
(1) 公共事業関係費	133,494	132,902	592	100.4
(2) 沖縄教育振興事業費	9,423	9,423	0	100.0
3 駐留軍用地跡地利用推進経費	1,255	1,255	0	100.0
4 沖縄子供の貧困緊急対策経費	1,102	1,000	102	110.2
5 沖縄北部連携促進特別振興事業費	2,572	2,572	0	100.0
6 戦後処理経費	3,059	2,908	151	105.2
1) 不発弾等対策経費	2,842	2,654	188	107.1
2) 対馬丸遭難学童遺族給付経費	3	3	0	98.6
3) 対馬丸平和祈念事業経費	21	20	0	102.1
4) 位置境界明確化経費	9	9	0	101.3
5) 沖縄戦関係資料閲覧室事業経費	23	15	8	153.3
6) 所有者不明土地問題の解決に向けた実態調査	161	207	△46	78.0
7 沖縄科学技術大学院大学学園関連経費	16,726	16,726	0	100.0
1) 沖縄科学技術大学院大学学園運営費	15,536	14,675	861	105.9
2) 沖縄科学技術大学院大学学園施設整備費	1,191	2,051	△861	58.0
8 沖縄振興開発金融公庫補給金	895	970	△75	92.3
9 鉄軌道等導入課題詳細調査	150	150	0	100.0
10 沖縄振興推進調査費	62	62	0	100.0
11 沖縄産業イノベーション創出事業費	1,055	0	1,055	(皆増)
1) 沖縄力発見創造事業費	59	0	59	(皆増)
2) 沖縄国際物流拠点活用推進事業費	816	0	816	(皆増)
3) 沖縄型産業中核人材育成事業費	180	0	180	(皆増)
12 沖縄離島活性化推進事業費	1,080	0	1,080	(皆増)
13 沖縄・地域安全パトロール事業費	868	0	868	(皆増)
14 防犯灯・防犯カメラ等緊急整備事業	1,476	0	1,476	(皆増)
15 交通環境イノベーション事業推進調査費	300	0	300	(皆増)
16 沖縄県北部地域大型観光拠点推進調査(仮称)	0	124	△124	(皆減)
17 その他の経費	5,646	5,587	59	101.1
合 計	315,001	334,969	△19,968	94.0

※四捨五入の関係で、合計等は必ずしも一致しない。

※平成29年度内閣府沖縄担当部局予算(案)については、以下の内閣府ホームページもご参照ください。

<http://www8.cao.go.jp/okinawa/3/33.html>

内閣府 沖縄担当部局の予算

検索

地域を広告する仕事

デザイン事務所 アイデアにんべん



箱の中には畑のイラストが！
開けても楽しい。

読谷村産
ドラゴンフルーツの箱
〈アイデアにんべん企画制作〉

地域のイベント、小さなお店や工房に関する広告やデザインが盛んだ。

那覇市天久にあるパン屋さんの紙袋には、かわいいイラスト、お店の周辺の地図、デザインがほどこされている。

「お店は障がいをもった方の就労訓練の場でもあります。近隣のお店も含めた町のマップを作りたいという依頼をいただきました。当時、パンを入れる袋が無地のビニール袋だったので、マップを描いた紙袋を提案しました。」

手がけたのは、読谷村にある、黒川真也さん、祐子さん夫婦の営む小さな事務所「アイデアにんべん」

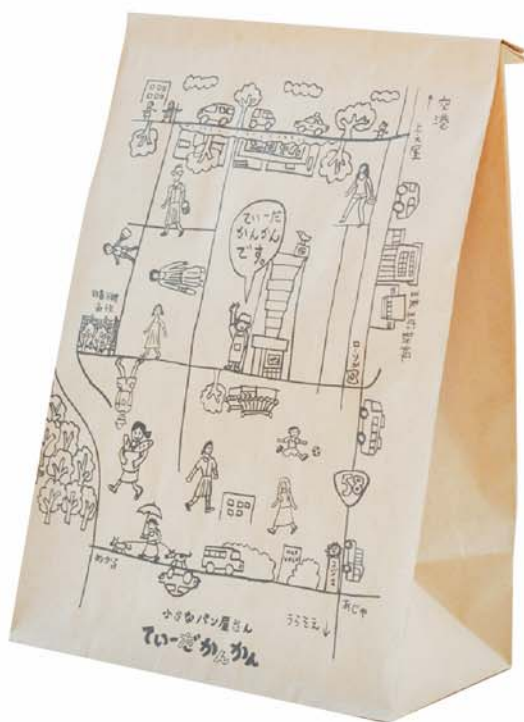
「にんべん」は人にかかわる漢字

「アイデアにんべん」って何ですかとよく聞かれるという。

「にんべん」をもつ漢字が人に関わるものであるということ。漢字は「偏（へん）」と「旁（つくり）」からできていて、2つ揃って初めて意味をなします。」

「私たちは「偏（へん）」で依頼してくれるお客さんは「旁（つくり）」だと考えています。私たちだけの思いが独り歩きしてもしょうがないし、お客さんがこうやりたいと言っても、それがうまく世の中

「小さなパン屋さん ていーだかんかん」
パンを入れる紙袋+地図。
袋目当てに足を運びたくなる。



に浸透しなければ意味をなさない。2つの意味があって、お互いの話をしながら、一つの伝えるものをつくっていきましようということを考えています。」

次ページにつづく



やんばる畑人プロジェクトのリーフレット。
イラストは色彩も美しく、見ていてほのぼのする。



「味噌めしや まるたま」のプロモーション。「おみ(そ)くじ」
には店舗情報が掲載されている。Tシャツデザインの企画も手がけた。

NPO法人が行う猫の里親探しのチラシ。
「森で生まれたヤンバルクイナ」と「森で生まれた
わけじゃないネコ」のキャッチコピーが心に残る。

サムネイルを描く、イメージを伝える

依頼主は、店舗、工房、NPO、行政と様々だ。

「『売れない』『もつと多くの人に知ってほしい』という課題があります。話を聞いて、このお客さんだったらこのやり方が楽しくできるのではないかと、予算にあつたやり方ができるのではないかと。その人に一番あったものを提案していきます。」

「提案はサムネイル(下書き)を描いてイメージを具現化し、お客さんと方向性を確認していきます。企画や言葉は必ず僕らでやって、プロジェクトにあわせて、イラストレーターやカメラマン、デザイナーなどのチームをつくりまします。」

真也さんの手描きのサムネイルはとても丁寧で、まめな仕事の進め方がうかがえる。

白い出会いや発見があるから面白い

「もちろん一筋縄ではいかない場面もありますが、仕事を通じていろんな人に出会えたり、お話を聞かせてもらえたりするのが嬉しいし、楽しいです。」

「例えば味噌のことは、味噌を作っている人から話を聞くのが一番わかりやすい。その人たちが当たり前だと思っていることの中にヒントが多いと思います。こういうことが広告のもとになります。」「どうい

ふうな光の当て方をすれば面白くできるのか、人が興味をもつのか、お客さんと話をして、お客さんから聞いたことを、どう翻訳し、どう伝えていくのか、いつも考えています。」

理想の環境を求めて沖縄へ

「大学を出てからずっと、大阪の広告会社に勤めてきました。会社が始まるのは、大きな企業の大きな仕事です。でも、小さな店や宿や工房や工場の仕事をやってみたいと思っていました。お客さんと話をして積み上げていくほうが面白いと思うので、その仕事ができる環境を求めて、沖縄に来ました。」「本当に人に支えていただいて、人に育てていただいていると感じています。だからこそ、アイデアや提案で、そのお返しをしていきたいと思っています。」

つながることで広がる可能性

やんばる畑人プロジェクトの広告も手がけた。

「沖縄には埋もれているけど良いものがいっぱいあると思います。新しいものを生み出すのではなくて、いまあるものを光らせたり、結びつかせたりすればもつとよくなるということが、たくさんあると思います。」

「やんばるのポテンシャルがすごい。農家、加工する人、料理人がつながり、新しい価値がどんどん広がっていく。結びつけることで、どんどん広がっていく可能



面白い人に出会ったり、いい人に出会って

沖縄では、少なくなっていく海の魚を



kukuluのリーフレット。
「まずはごはんを食べにおいで」
言葉とイラストは、優しさにあふれている

「世の中でないものとされている“3パーセントの子どもたちがいる。なんとかしないといけないし、この仕事を通して、僕らは初めて子ども食堂のことを知りました。それを伝えるためにはどうしたらいいのかということを考えていく。」「こういう世の中になつたらいいな」というところはもちろん見えています。」

沖縄では、はじめや貧困が原因で学校に行けない子どもがクラスに1人の割合でいると言われている。子どもたちの生活支援、学習支援を行う団体があり、アイデアにんべんはこのような活動を行う団体の広報も手がけている。



こつこつ社会になつたら楽しい

性が沖縄にはある。それをどう伝えていくのか、そこに携わる人たちのこだわりや魅力をどう発信していくか。大事な仕事だと考えながらお伝えしました。」



思いのある人は面白い

広告の仕事に同じものではなく、それぞれ課題が違うという。伝わる広告の秘訣を聞いてみた。

「最後は依頼してくれる人の思いです。思いがある人は応援したいという気持ちになります。」

「海が弱っていることを魚たちの次によく知っているのは海人です。海の中を見渡したとき、魚の数があまりにも減っているのです。海の汚染、サンゴの死滅、生態系の変化など、問題は積まれるいっぽうでした。ある日、思いのあふれた海人が言いました。海を休ませよう」と。海をよく知る漁業者ならではの声を上げ、その視点や知恵を生かしていこうと彼はNPOを立ち上げました。」

「こういったアクションを起こす人が私たちのまわりにたくさんいます。」「面白い人に出会ったり、いい人に出会って運はもっていると思います。」

プロフィール

アイデアにんべん
(黒川真也・黒川祐子)

広告やパンフレット、パッケージの企画制作、編集、取材執筆などを承る事務所。読谷村を拠点に、「地域」を広告する仕事に取り組む。ものごとの本質をよく見て、何を「伝える」か、どうすれば「伝わる」かをアイデアと言葉から考えている。
<http://idea-ninben.com>



真也さんは、1971年京都府生まれ。大学卒業後、大阪の広告会社を経て2001年沖縄へ。祐子さんは、1973年奈良県生まれ。大学卒業後、大阪の広告会社を経て真也さんと一緒に沖縄へ。2006年からアイデアにんべんとして活動。



1、2 読谷村のファーマーズマーケットで販売される商品のシールも手掛けた。3 伊江島名産島らっきょうを使った「いえぎょうざ」のパッケージ。4 企画制作した天然はちみつのラベル。かわいらしさに思わず手にしたくなる。

特集

伝統的工芸品産業の 新しい動き



経済産業省では、伝統的工芸品産業を地域の資源・技術を基盤とし、地域経済の発展に貢献するものであり、我が国の優れたものづくり文化の象徴として「日本らしさ」を国内外に発信する貴重かつ重要な産業として、維持・発展することに主眼を置いて支援しております。

南風原花織の伝統的工芸品 への新規指定について

伝統的工芸品とは、「100年以上の歴史を有し、今日まで継続している伝統的な技術・技法により製造されるものであること」などの5つの要件を全て満たし、伝統的工芸品産業の振興に関する法律に基づき、経済産業大臣が指定する工芸品のことをいいます。

今回、沖縄から新たな伝統的工芸品が誕生しました。新規指定に向け準備を進めていた南風原花織が平成28年12月21日開催の「産業構造審議会製造産業分科会第1回伝統的工芸品指定小委員会」において審議が行われた結果、新規指定することについて了承され、平成29年1月26日の官報告示により、正式に経済産業大臣指定品目となりました。

これは、平成24年に「知花花織」が指定されて以来、沖縄からは4年ぶりの新規指定となります。
また、今回の指定により、全国の指

定品目は225品目となり、そのうち沖縄県では15品目で、京都(17品目)、新潟・東京(16品目)につづき全国で4番目に多い指定品目数となっております。

南風原花織について

今回指定された南風原花織は織物の一種で、明治時代以降には沖縄県南風原町で生産されていたことが確



南風原花織

認されております。組織織で構成された、花のように美しい立体的な柄には、クワンクワン花織、チップガサー、喜屋武八枚など南風原地域独特の名称や模様が存在します。

経緯

伝統的工芸品とは、上段で述べたように、指定の要件として、①主として日常生活の用に供されるものであること、②製造工程の主要部分が手工業的であること、③伝統的技術・技法により製造されるものであること(工芸品を製造する技術・技法が100年以上の歴史を有し、今日まで持続していること、④伝統的に使用されてきた原材料であること、⑤一定の地域で産地形成がなされていること、を満たす必要があります。

南風原花織は、南風原町が沖縄戦の中で壊滅的な被害を受けたことから、100年以上の歴史を証明する現物が焼失しており、証明する証拠物がなかったことから指定の申出までに時間を要していましたが、今回、学芸員などの地道な研究活動により、大正時代の新聞記事の発見や聞き取り調査による継承系譜の作成に至り、指定への大きな根拠資料となりました。

期待される効果

近年、伝統的工芸品産業を取り巻く環境は、生活様式の変化や安価な類似品の増大による需要の低迷などにより、各産地においては伝統的技術・技法の継承が課題となっております。今回、南風原花織が指定され、国指定の伝統的工芸品と位置づけられることにより認知度の向上はもとより、販売の際に問屋・販売業者への交渉力の向上、買取価格向上等に繋がる事が期待されています。また、



花織を織る様子

今回、南風原町は、琉球絣に加え南風原花織という2品目が国指定となりました。伝統的工芸品産業が今日のな二一ズを取り込み活性化することで南風原町の地場産業の振興に寄与することを期待しています。

沖縄総合事務局経済産業部としても、産業振興のひとつとして、伝統的工芸品産業の課題である、後継者育成、原材料確保、新商品開発・新分野への進出、地域ブランドを始め知財戦略についても支援していくこととしております。

平成28年度伝統的工芸品産業功労者等表彰式の開催

経済産業省では、伝統的工芸品に対する国民の理解とその一層の普及を目指して、毎年11月を伝統的工芸品月間と定め、「伝統的工芸品全国大会」を開催しており、本年度は昨年11月24日に福井県鯖江市で開催されました。また、当局においては、県内の伝統的工芸品への理解を深めることを目的として、局1階の行政情報プラザにおいて「沖縄の伝統的工芸品展」を11月28日、11月29日の2日間開催いたしました。11月29日には、伝統的工芸品産業の振興に顕著な功績があった個人などに対する「平成28年度伝統的工芸品産業功労者等経済

産業大臣表彰伝達式及び内閣府沖縄総合事務局局長表彰式」を同会場にて開催しました。経済産業大臣表彰功労賞（組合役員）の照屋和子さん（琉球びんがた事業協同組合）、同功労賞（伝統工芸士）の大城ヨシ子さん（琉球絣事業協同組合）、同功労賞（学識経験者）のルバース吟子さん（沖縄県立芸術大学名誉教授）、沖縄総合事務局局長表彰功労賞（組合役員）の吉浜博子さん（那覇伝統織物事業協同組合）、知念績元さん（琉球びんがた事業協同組合）、同功労賞（伝統工芸士）の幸地綾子さん、桃原禎子さん、新垣勝秀さん（久米島細事業協同組合）、同功労賞（公的機関の職員）の比嘉利寛さん（沖縄県工芸振興センター）の9名の受賞者に対して能登靖沖縄総



経済産業大臣表彰功労賞（伝統工芸士）を受賞した琉球絣事業協同組合の大城ヨシ子さん

合事務局長から表彰状が授与されました。表彰式には、各産地組合の理事長や関係者にも御出席頂き、盛大に開催されました。「沖縄の伝統的工芸品展」では今年度功労賞受賞者の作品や伝統的工芸品産業支援補助金を活用して実施している後継者育成事業の成果品、新商品などを展示し、多くのお客様にご来場いただきました。



受賞者のみなさん



多くの人が利用しやすい官庁施設をめざして



バリアフリー・ユニバーサルデザインとは

最近では、「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」という言葉を耳にする機会も多いように思います。

バリアフリーは、障害者や高齢者などの利用を妨げるもの（バリア）を無くしていくことを表しており、ユニバーサルデザイン（以下、UDと呼ぶ）は、障害の有無、年齢、性別、言語にかかわらず、だれもが利用しやすい環境をデザインすることを指しています。

どちらの言葉も「多様な利用者に配慮する」という意味で用いられ、公共建築物では重要視されています。

私たち営繕課・営繕監督保全部は整備を行っている「官庁施設」には

様々な規模、機能を持った建物があります。また、建物の利用者も障害者や高齢者、子どもや乳幼児連れ、外国人など幅広くなっています。そのような状況から、整備を行う際はそれぞれの施設の特徴を把握し、あらゆる利用者を想定したバリアフリーやUDに取り組んでいます。

官庁施設のユニバーサルデザイン

現在、官庁施設では、多様な利用者に配慮する取り組みとして、平成18年に制定された「官庁施設のユニバーサルデザインに関する基準」に基づき、UDレビューを行っています。UDレビューでは、専門家や施設利用者からの意見を聴取したり、実物大模型による現場確認などを実施し、利用者ニーズの収集と解決策を検討します。

また、実施する際は（企画・設計・施工）の段階に分けて行い、最終的には出来上がったものを評価してフィードバックする流れとなっています。

下記では、沖縄総合事務局が入居する那覇第2地方合同庁舎で行ったUDの事例を紹介します。



階段

階段はゆとりを持たせて1段の高さも低い。手すりは使う人に合わせて2段、先端には点字表示がある



多機能トイレ

車いすやベビーカーが利用できる広さを確保。オストメイトに対応し、ベビシートや緊急呼び出し装置を設置



玄関

歩道から連続して建物内部まで誘導ブロックを設置。音声誘導装置による案内も行う



サイン表示

廊下のコーナー部分、目立つ位置に案内サインを設置



案内板

玄関ドアの近くに点字表示とインターホンをつけた案内板を設置



駐車場

5台分の車いす使用者用駐車スペースを設けている

バリアフリー教室の開催

夏休みにあわせて開催されたこども見学デーでは、「バリアフリー教室」を実施しました。多くのこどもたちの参加があり、3つすべて体験したり、同じ体験を2回行う様子も見られました。こどもたちはまっすぐ歩くのに苦労したり、少し進むだけで疲れてしまうといった感覚に興味をもったようです。今回の体験を通して、私たちが行っている取り組みや官庁施設を知ってもらう良い機会になりました。

体験場所 1・2号館(1階部分)

敷地入口

1号館玄関ホール

多目的トイレ

エレベーター前

2号館玄関ホール



車いすや誘導ブロックの説明を受けて体験へ!

バリアフリー教室 in こども見学デー

沖縄総合事務局
平成28年8月3日開催

車いすの乗車体験、アイマスクと白杖(はくじょう)を使った歩行体験、体におもりとゴーグルをつけた高齢者体験の3つを行いました。
参加者74名(小学生70人、幼稚園生2名、中学生2名)

アイマスク 白杖体験



白杖を使って障害物がないか確認

車いす体験



少しの段差やスロープを進むのも結構大変

高齢者体験



足と手におもりをつけて、ゴーグルも装着

仕事 の窓①

財務部

管内経済情勢報告

管内経済は、着実に回復している
(平成29年1月)

「管内経済情勢報告」は、各府省等が実施している統計調査結果に加えて、管内企業へのヒアリングなどによりその背景を確認した上で、地方経済の実態を調査・分析して、四半期毎に取りまとめて公表するもので、財務省の各種施策へも活用されています。

【総括判断】

前回 (28年10月判断)	今回 (29年1月判断)	前回との比較	総括判断の要点
着実に回復している	着実に回復している	→	個人消費については、百貨店・スーパーやコンビニエンスストアの販売額が好調に推移しており、回復している。観光については、外国人観光客の大幅な増加などから、入域観光客数は38ヶ月連続で単月の過去最高を記録し好調に推移するなど、着実に回復している。雇用情勢については、新規求人数が高い水準で推移するなど、改善している。

(注) 29年1月判断は、前回28年10月判断以降、29年1月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。(以下、各項目の判断も同様)

先行き

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、沖縄振興策などを背景として景気が回復していくことが期待される。ただし、海外景気の下振れリスクや、為替の動向などについて、引き続き注視していく必要がある。

【主要項目の判断及び動向】

個人消費

前回(28年10月判断)	今回(29年1月判断)	前回との比較
回復している	回復している	→

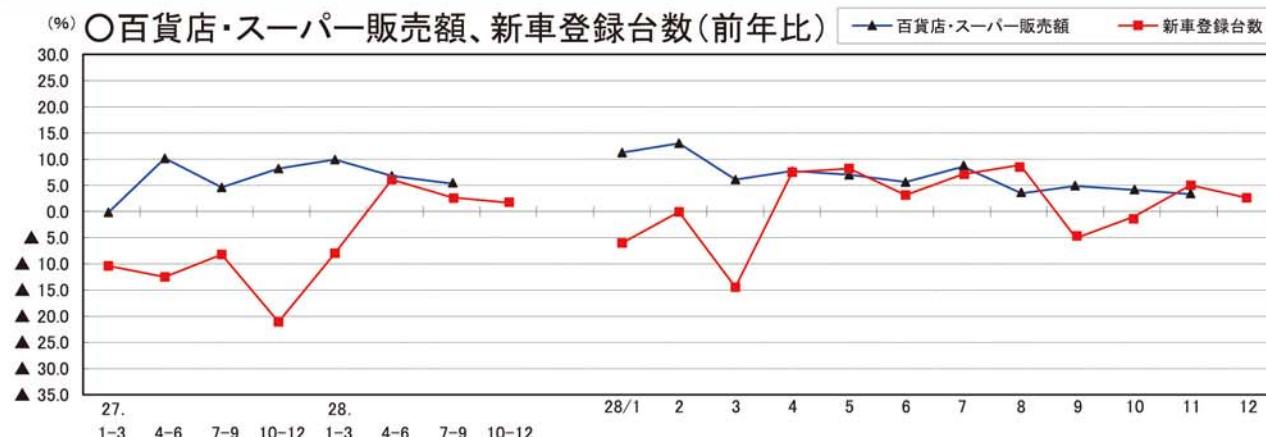
百貨店・スーパー販売額については、暖冬により衣料品が低調であるものの、店舗改装効果などにより飲食料品が好調なことなどから前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額については、新規出店効果のほか、ファストフードが堅調なことなどから前年を上回っている。

新車販売台数については、軽自動車は前年を下回っているものの、新型車効果などにより前年を上回っている。中古車販売台数については、販売促進効果などから前年を上回っている。

家電販売額については、テレビや白物家電は好調であるものの、暖冬の影響で季節家電が低調なことなどから、前年を下回っている。

このように、個人消費は回復している。



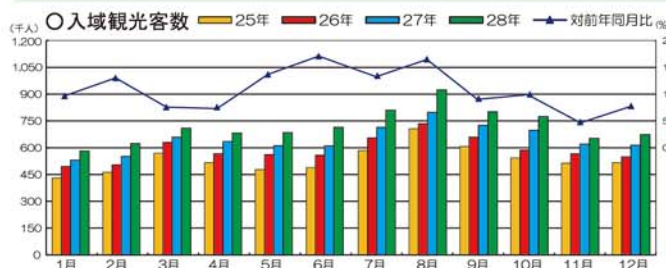
(資料)百貨店・スーパー販売額:経済産業省、沖縄総合事務局 新車登録台数:沖縄県自動車販売協会
(注1)百貨店・スーパー販売額は全店ベース。(注2)新車登録台数はレンタカー除く。

詳しい内容については、財務部ホームページで全体版をご覧ください。 URL⇒<http://www.ogb.go.jp/zaimu/12455/index.html>

観光

前回(28年10月判断)	今回(29年1月判断)	前回との比較
着実に回復している	着実に回復している	➡

入域観光客数は、国内客は個人旅行を中心とした好調な旅行需要により増加しており、外国客は航空路線拡充及びクルーズ船の寄港数の増加などにより大幅に増加していることから、38ヶ月連続で単月の過去最高を記録している。ホテルの客室稼働率、客室単価ともに前年を上回っている。このように、観光は着実に回復している。

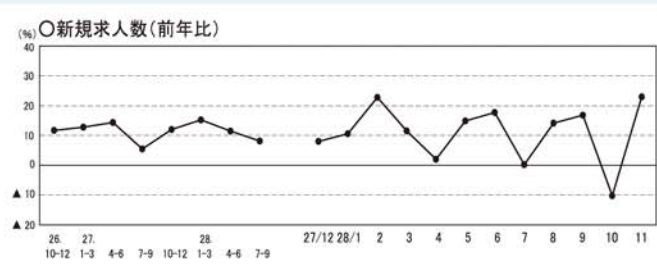


資料：沖縄県

雇用情勢

前回(28年10月判断)	今回(29年1月判断)	前回との比較
改善している	改善している	➡

有効求人倍率(季節調整値)は下降しているものの、新規求職者数(新規求職申込件数)は前年を下回っており、新規求人数は、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業など多くの業種で前年を上回っている。このように、雇用情勢は改善している。



【その他の項目の動向】

住宅建設



新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲ともに前年を上回っており、全体でも前年を上回っている。

設備投資



法人企業景気予測調査(28年10～12月期)でみると、全産業では前年度を5.3%上回る見込み(石油・石炭、電気・ガス・水道を除くと0.1%下回る見込み)となっている。

公共事業



公共工事前払金保証請負額(28年4～12月累計)は、前年を上回っている。

生産活動



製造業の生産活動は、食料品では、酒類の一部で前年を上回っているものの、全体としては前年を下回っている。窯業・土石では、公共工事の反動減等を背景として前年を下回っている。金属製品では、前年を上回っている。このように、生産活動は緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられる

企業収益



法人企業景気予測調査(28年10～12月期)でみると、28年度下期は、全産業で9.6%の減益見込みとなっている。28年度通期は、全産業で1.8%の増益見込みとなっている。

企業の景況感



企業の景況判断BSIを法人企業景気予測調査(28年10～12月期)でみると、全産業では、「上昇」超幅が縮小している。業種別にみると、製造業では、「上昇」とする企業が増加していることから、「上昇」超幅が拡大している。非製造業では、卸・小売、情報通信で「上昇」とする企業が減少していることなどから「上昇」超幅が縮小している。

仕事の窓 2

農林水産部

国営伊江地下ダム及び伊江村の特別展示と「散水式」

12月12日から16日までの5日間、那覇第2地方合同庁舎1階行政情報プラザにおいて、国営かんがい排水事業「伊江地区」で建設中の地下ダムと伊江島の農業をテーマに、農業農村整備のパネル展を開催しました。

特別展示

国営かんがい排水事業伊江地区は、従来から水不足に悩まされてきた伊江村の668haの農地を対象に、安定的な農業用水を供給するため、平成16年度から地下ダムやパイプラインなどの施設の建設に着手しました。本年度末には地下ダムを始めとする基幹水利施設の建設を完成する予定で、今回の特別展示におけるパネル展



新たに作成した地下ダム模型を視察する伊江村長（右端）



土地改良区総代会の様子（農林水産部長の祝辞）



散水式の様子（右から伊江村村長、農林水産部長、沖縄県農林水産部統括監）

散水式

1月18日、伊江島において、国営かんがい排水事業伊江地区で建設した地下ダム事業の実施内容や効果を紹介しました。また、地下ダムの模型や伊江島の特産（島らっきょう、とうがん、モンステラ、輪菊等）も展示しました。来場者からは「伊江島に多くの特産物があつて驚きました。小さな島だけど凄いと思いました。」などの嬉しい意見もいただきました。また、12月2日に、首相官邸において「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の優良活動事例として選定された伊江島の「タマレント企画」の活動紹介とその企画商品である伊江島小麦チップス「ケックン」の試食、その他商品の展示も行いました。

1月18日、伊江島において、国営かん

がい排水事業伊江地区で建設した地下ダムなどを管理する「伊江土地改良区」の設立総代会を開催後、伊江土地改良区主催により、平成29年4月から伊江地下ダムの本格的な通水開始を記念した散水式が開催されました。

散水式では、伊江村長、沖縄県農林水産部統括監、沖縄総合事務局農林水産部長のバルブ操作により、牧草地、サトウキビ畑に設置したスプリンクラーから勢いよくかんがい用水が散水される状況を、農家、地元関係者、村議会議員、行政やマスコミ関係者など総勢約100名が見守りました。当日の天候はあいにくの雨でしたが、村長より「農業用水は天からの恵みによりもたらされるもので、散水式では天からの雨、地からの散水、両方が門出を祝し思い出深いものになった。」との挨拶がありました。続いて、元村長からは、伊江島の戦後復興から始まり、一滴の水も無駄にはせず水の確保に苦労してきた伊江島農業の歴史や、地下ダムの完成により新たな農業の展開に期待する思いが語られました。

伊江地下ダムの完成により安定的な農業用水が供給され、農家の皆様に有効に活用されることで、農業生産の拡大、収益性の高い作物や新規作物の導入、農業用水の運搬などにかかる多大な労力の軽減などが図られ、活気のある伊江島の農業が更に発展することを期待します。

仕事 の窓 ③

経済産業部

琉球泡盛を海外へ

～沖縄国際ハブクラスターでは琉球泡盛の
海外展開をサポートしています～



製造工程の体験(久米島の久米仙)



年代の異なる泡盛のテイasting(忠孝酒造)

今年1月、泡盛メーカー3社と株式会社Blueship沖縄は、公益財団法人沖縄県産業振興公社の「万国津梁産業人材育成事業」を活用して海外から専門家を招聘し、海外で通用するブランディングについて勉強会を開催しました。

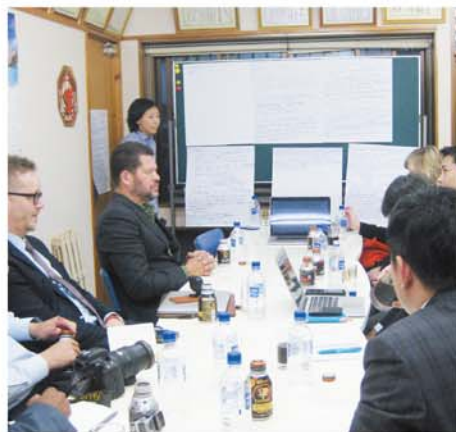
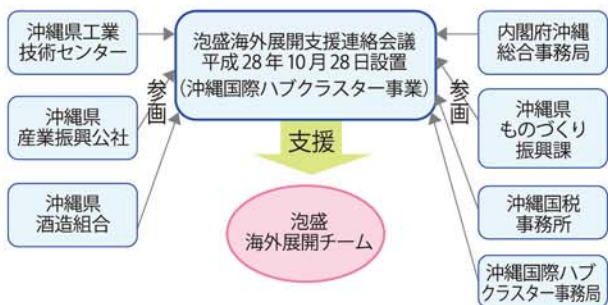
経済産業部では、海外展開に取り組む企業をサポートする産学官金ネットワーク「沖縄国際ハブクラスター」において、沖縄国税事務所や沖縄県等関係機関が参画する「泡盛海外展開支援連絡会議」を平成28年10月28日に設置しました。同会議では、忠孝酒造株式会社、瑞泉酒造株式会社、株式会社久米島の久米仙、株式会社Blueship沖縄の市場ニーズにマッチした商品開発・ブランディングによる海外展開の取り組みについて支援を行っています。

招聘したブランディングチームは、主に西洋圏を中心に活動を行っており、ウォッカやテキーラといった有名酒類をはじめ様々な製品のブランド化を世界中で手がけ、活躍しています。彼らは約1週間の滞在中、各泡盛メーカーを訪問し、工場や貯蔵施設の見学、社長や職人と意見交換を行い、ブランディング、海外展開の手法について助言を行いました。今回の滞在を経て彼らは、「泡盛は品質・味がすばらしく、独自性・特異性がある」、「テキーラのように独自性を持つアルコールとして興味をひけるのではないかと琉球泡盛の可能性に期待しました」。



琉球泡盛の欧米展開に関する4社記者会見

支援体制図



ブランドデザインのための意見交換(瑞泉酒造)

今後、泡盛メーカーは、琉球泡盛の欧米展開に向けたブランディング戦略を練り上げ、欧米市場のニーズに沿った新しい切り口のPRに挑戦します。

公共交通事故被害者等 支援フォーラム

～「公共交通事故被害者等支援」の取組～

仕事の窓 4

運輸部



フォーラム参加者

公共交通の事故被害者から事故の状況や事故原因に関する情報提供および心のケアなどの支援を国としても検討して欲しいと継続的な要請があり、それを受けて国土交通省では、平成24年4月に「公共交通事故被害者支援室」を設置しました。沖縄においては、沖縄総合事務局運輸部企画室が本業務を行っております。

事故が発生した場合の主な業務としては、公共交通の事故による被害者やそのご家族に対して、生活支援・経済支援・心身のケアなどの様々な相談窓口として対応し、関係機関などのご案内を中長期にわたり行っております。

平時においては、公共交通事業者に対して、被害者への情報提供窓口や相談受付体制などについて定めた「被害者等支援計画」の策定、被害者やご家族に寄り添った対応についての周知活動を行っております。

公共交通事故被害者支援室の体制

総合政策局・安心生活政策課

課長（室長）

企画官

課長補佐以下4名

計 支援室員 61名

本省において窓口を設置

鉄道局（4名）

自動車局（4名）

海事局（4名）

航空局（4名）

運輸安全委員会事務局（3名）

地方運輸局等（36名）

フォーラム概要

平成28年12月6日に沖縄総合事務局で公共交通事故被害者等支援フォーラムを開催しました。

本フォーラムでは、安全意識の啓発や公共交通事業者による被害者等支援計画策定の意識などを改めて認識していただくことを主旨とし、併せて安全対策や被害者支援についての国の取組を紹介しました。

当日は、明石歩道橋事故のご遺族であり、鉄道安全推進会議会長の下村誠治氏より「被害者の方から望むこと」というテーマで、被害者・遺族の心情や求めていることについてご講演いただきました。被害者を支援する立場か

公共交通事故被害者支援室の業務

【事故発生直後の対応】

事故が発生した直後から、被害者家族等からの相談・要望を伺い、主に、以下の対応をいたします。

- ・被害者の安否情報を収集・整理し、被害者家族等に提供
- ・被害者等のニーズに応じ、事業者等による避難場所・宿泊施設・交通手段の手配等をコーディネート
- ・警察・消防等に被害者等のニーズを伝達 など

【中長期的対応】

事故発生後一定期間が経過した後においても、被害者等からの相談・要望を伺い、主に、以下の対応をいたします。

- ・事故当事者である交通事業者に対する指導・助言
- ・事故調査情報、規制の見直しに関する情報の提供
- ・生活相談、「心のケア」に関する相談等を受け、関係機関を紹介 など

【平時における対応】

- 国土交通省職員を事故被害者等「支援員」として登録し、被害者等に配慮した接し方等に関する教育訓練を実施
- 関係機関との緊密なネットワークの構築
（警察、消防、医療機関、地方公共団体、日本赤十字社、被害者団体、「心のケア」専門家、犯罪被害者支援関係NPO等）
- 交通事業者による被害者等支援計画の策定促進

らは、公益社団法人沖縄被害者支援ゆいセンターの安里優氏に支援することの大切さ、難しさなどについてご講演いただきました。

フォーラムには航空・旅客船・モノレール・乗合バス・貸切バス・タクシーの関係者などから参加があり、受講者は講演内容に真剣に耳を傾けている様子でした。

県内で「被害者等支援計画」を策定している事業者は航空会社2社となっていますが、参加した公共交通事業者から被害者等支援計画の重要性について認識して頂くことができました。

今後も沖縄総合事務局では、少しでも多くの公共交通事業者が被害者等支援計画を策定してもらえるように呼び掛けていきます。



内閣府だより



沖縄ナイト in 東京

平成29年1月26日に沖縄県及び一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー主催で、沖縄の観光PRと協力へ感謝する「沖縄ナイト in 東京」が開催され、鶴保沖縄担当大臣も出席し、来賓挨拶を行いました。

鶴保大臣は挨拶の中で、沖縄の魅力を国内外に積極的に発信していくことや、振る舞われた泡盛カクテル「58KACHA-SEA(ゴーヤーカチャーシー)」の普及について語りました。

会場では沖縄の食材を使った料理が振る舞われたり、沖縄伝統空手、琉球舞踊のパフォーマンスが披露されるなど、訪れた人々を楽しませました。



来賓挨拶を行う鶴保大臣



琉球舞踊のパフォーマンス



沖縄伝統空手のパフォーマンス

58KACHA-SEA(ゴーヤーカチャーシー)



試飲する鶴保大臣



「58KACHA-SEA(ゴーヤーカチャーシー)」は平成28年11月1日「泡盛の日」に、沖縄を代表する泡盛カクテルとして誕生しました。

泡盛を美味しく飲んでもらおうと、沖縄県内の泡盛業界や飲食店業界などが一般公募したレシピと名前の中から選んだ、簡単で美味しい泡盛カクテルです。

鶴保沖縄担当大臣も石垣市への出張の際に、視察で訪れた酒造所で試飲しています。

その味はゴーヤーの苦味がほどよく泡盛に溶け込んでいて、強いお酒が苦手な方や泡盛を初めて飲む方にもとてもオススメです。皆さんも、ぜひ一度飲んでみてはいかがでしょうか。

財務部 金融トラブルから身を守るためのシンポジウム

2月13日、沖縄総合事務局と金融庁は、金融商品・サービスを巡るトラブルについて、被害の発生や拡大を防止する観点から、「金融トラブルから身を守るためのシンポジウム」を共同で開催しました。

弁護士の菊池幸夫氏から、加害者側弁護人として関わった特殊詐欺事件についての基調講演があり、また、金融庁総務企画局政策課の竹内課長補佐から、金融庁の「金融サービス利用者相談室」の相談実績や相談室に寄せられた詐欺的な投資勧誘の相談事例についての紹介がありました。

パネルディスカッションでは、コーディネーターとしてファイナンシャルプランナーの深野康彦氏、パネリストとして、沖縄県警察本部の豊里友仁氏、NPO法人消費者センター理事長の仲宗根京子氏、基調講演に引き続き菊池幸夫氏に登壇いただきました。

県内では、昨年、還付金詐欺の被害が件数、金額ともに過去最多となるなど、高齢者の被害が多発している

現状が報告されました。パネリストからは、「電話でお金のお話がでたら、家族だけではなくセカンドオピニオンとして消費生活センターや警察、弁護士に相談すること」や「簡単に儲かる話はない。自分は絶対大丈夫だと過信しないこと」の呼びかけや、若者への金銭教育や自治会や老人会など地域の連携が重要であるとの提言がなされました。



パネルディスカッション

財務部 消防訓練で廃止宿舎（前田住宅）を活用！

浦添市前田にある公務員宿舎について、浦添消防本部から、消防組織法第39条に基づく「沖縄県消防相互応援協定」の特別応援を踏まえた実践的な訓練を行いたいとの要望があり、1月20日に、中部地区消防本部・消防団（浦添市、宜野湾市、中城北中城、沖縄市、ニライ、うるま市）、浦添総合病院、ハートライフ病院を含めた中部地区消防総合訓練を実施しました。

当局からも、宿舎担当者及び宿舎管理人が自衛消防訓練の一環として、前田自治会の住民と共に自衛消防隊として訓練に参加しました。

訓練想定としては、大規模地震が発生し、国家公務員宿舎前田住宅一帯において火災等の集中的な被害が発生。自衛消防隊による初期消火を実施するも、火災の勢いは拡大し、浦添消防本部が出動。しかし、被害が甚大であることから、中部地区消防機関及び関連病院に応援要請し、浦添消防本部の指揮の下、状況



消火及び室内救出訓練



瓦礫に埋もれた者の救出訓練

に応じた訓練でした。

大規模訓練を実施する場所の確保が難しい中で、非常に有意義な訓練となり、地域防災の備えの一助となったと思います。

また、宿舎管理人や宿舎担当者も、自衛消防における初期対応の重要性を改めて感じる事が出来、非常によい経験となりました。



訓練終了後の講評

財務部 教えて「金融監督課」進行中！

財務部金融監督課では、①金融機能の安定、②利用者保護、③金融の円滑化を目的に、銀行、保険会社、貸金業者、さらには商品券の発行者など、多岐に亘る業態の規制・監督・育成を行っており、上記3つの目的達成の一環として、様々な職場・団体などに対して、金融行政に関する広報活動を行っています。

昨年12月6日、銀行の支店長を対象として、「最近の金融行政について」の講話を行い、同月15日、生命保険会社の支社長を対象として、「保険会社に対する監督・検査」などについて講話を行いました。

また、近年、振り込め詐欺、投資詐欺など高齢者を狙った特殊詐欺が発生していることを踏まえ、金融犯罪の被害防止を図るため、高齢者に対する出前講座を積極的に実施しました。具体的には、昨年12月14日及び1月11日、南城市の2つの老人クラブに対して、「金融トラブルに巻き込まれないために！！」の講座を行いました。

金融機関への講話



した。受講者からは、「電話でATMに誘導されない」、「甘い言葉には気をつける」、「明日は我が身と思って注意する」などの意見が寄せられました。

当課は、今後も、様々な職場・団体などからの要望に応じて、積極的に講師派遣に取り組み、金融広報と地域連携に努めてまいります。



高齢者への講話

農林水産部

活躍する農業女子による 農業の魅力と可能性を伝える講演会

女性農業者は、今や農業経営だけではなく、女性ならではのアイデアと感性を活かした農業生産や加工などに取り組み、地域の活性化においても重要な役割を担っています。

農林水産部では、平成28年10月から12月にかけて、将来、地域農業の担い手と期待される沖縄本島内の3つの農林高校の生徒を対象に、農業への関心をより深め、更に就農意欲を高めてもらうため、県内で活躍する女性農業者から農業の魅力伝えていただく講演会を開催しました。

講演会では、農林水産省が立ち上げた農業女子プロジェクトメンバーである上里さゆり氏から「農業の魅力と就農するまで」と題して、農業に魅力を感じながら就農するまでの経緯を紹介し、また、沖縄県知事から認定された女性農業士である照屋和江氏、玉代勢安子氏から「地域農業との関わり方」として、地域の先輩農家



講演に聞き入る生徒（北部農林高校）



講演後の意見交換の様子（中部農林高校）

や担い手農家とのコミュニケーションの大切さについてお話していただきました。講演後には、講演者と生徒との間で収入ややりがいなどについて率直に意見を交わし、交流をしていただきました。

各講演会では、北部農林高校が約60人、中部農林高校、南部農林高校がそれぞれ約50人と、多くの参加があり、参加した生徒からは、「女性でも楽しく農業をできることが分かった」、「将来の選択肢の1つとして、農業もいいなと思った」などの感想が寄せられました。



講演後の質疑応答の様子（南部農林高校）

農林 水産部

農福連携推進沖縄ブロック セミナー

一般社団法人日本基金理事 林正剛氏



農業と福祉との連携の推進に向け、普及啓発及び人材育成の促進などを目的に、農林水産省及び沖縄地域農業の障害者就労・雇用促進ネットワーク（沖縄総合事務局、沖縄労働局、沖縄県、沖縄県農業法人協会、南部地区障がい者就労・生活支援センター）の主催により、1月17日に沖縄県立博物館・美術館講堂において、農福連携推進沖縄ブロックセミナーを開催しました。

一般社団法人日本基金理事 林正剛氏をお招きし、基調講演「はじめよう農福連携！～全国で広がる農業分野での障害者就労～」というテーマで、農業サイドからみた福祉との連携の必要性などを説明していただくとともに、農業分野で障害者の活躍の場を作られている先進事例を紹介していただきました。

また、株式会社楽ワーク福祉作業所（南城市）サービス管理責任者 玉城達矢氏、NPO法人ていだ与勝（うるま市）理事 佐久田盛徳氏から、県内での取組事例を発

表していただきました。

このほか、農林水産省担当者からの農福連携の支援制度などに関する説明に加え、一般財団法人地方自治体公民連携研究財団担当者からノウフクマルシェの取組などの紹介がありました。

当日は約130名の参加があり、参加者からは、「今後の事業所の取組のひとつとして農福連携を検討したい。」「次回のセミナーにも是非参加したい。」などの声が寄せられました。



セミナー会場の様子

経済 産業部

「省エネルギー月間(2月)」の イベント

表彰式の様子（沖縄電気安全・使用合理化委員会との合同開催）



政府は、冬季のエネルギー需要が増大する2月を「省エネルギー月間」と定めています。2月3日に省エネの普及啓発などを目的に沖縄総合事務局が実施した以下2つのイベントをご紹介します。

①「エネルギー管理功績者及び優良工場等表彰式」

工場等のエネルギー管理の推進に不断の努力を重ね、その成果などが優れている事業者として、国立大学法人琉球大学が沖縄総合事務局長表彰を受賞しました。大学構内の優れたエネルギー管理体制や設備更新による計画的な省エネ実践とその成果などが高く評価されました。また、合同で実施した沖縄電気安全・使用合理化委員会委員長表彰は、ザ・テラスホテルズ株式会社のザ・ブセナテラスが受賞しました。

②「エネルギー使用合理化シンポジウム」

シンポジウム前半では、経済産業省資源エネルギー庁担当者から省エネ政策の動向についての説明があり、基調講演では「家庭、企業、自治体、大学などの省エ

ネ・環境経営」と題し、慶應義塾大学大学院特任教授の小林光氏から家庭やビル、地域の省エネに改善の余地があることやその手法などについてご紹介がありました。また、後半のパネルディスカッションでは、「効果的な省エネ戦略～省エネ提案の実現化のための具体的なノウハウ・スキル～」をテーマに、来場者の声を取り込みながら討論が行われました。パネリストには、前記の小林光氏、資源エネルギー庁担当者のほか、琉球大学の環境整備課長山下誠氏、特別養護老人ホーム愛誠園の総務課長島勝幸氏を迎え、組織内での省エネ提案に経営的視点や外部のサポートを取り入れた事例などについて議論が行われました。



シンポジウムの様子

経済 産業部

南部安全衛生連絡協議会が発足!

～鉱物を安全に掘採し、安全に輸送する～

皆さん、「鉱山」って知っていますか?天然ガスや石灰石など「鉱物」を掘採する場所を「鉱山」といいます。沖縄では、主に石灰石が掘採されていますが、その石灰石は、セメントの原材料として、また那覇空港第二滑走路の埋立てや道路の路盤材として利用されており、私達の暮らしに欠かせないものです。

「鉱山」では、石灰石を砕いたり、ダンプカーで運搬する際に鉱山で付着したタイヤの土が道路に落ちたり、粉じんが舞ったりすることもある。鉱山事業者がその対策に尽力するものの、結果として個々の鉱山において十分な成果を発揮できない状況が散見されます。

そこで、沖縄県南部の鉱山事業者は、粉じん対策やダンプカーなどによる安全輸送を目的とした「南部安全衛生連絡協議会(山城樹会長)」を発足させ、12月5日に同協議会の設立総会・式典を挙行了しました。総会では役員の選出、今後の事業計画などが了承され、続く式典

で市役所、警察、弁護士などの関係者から、同協議会として地域に寄り添う取組に対し激励がなされました。

「石灰石鉱山」は、社会基盤の整備に必要とされる産業であることから、沖縄総合事務局では、鉱山の合理的開発はもちろん、地域住民の理解が得られるよう、同協議会と連動しつつ、多様な取組をサポートしてまいります。

集合写真(式典)



式典の様子

運輸部

船員の特定最低賃金が改正されます

～昨年に続き二業種すべてで引き上げ～

昨年12月15日、沖縄地方交通審議会(会長 宮里 猛)から沖縄総合事務局長(能登 靖)に対して「沖縄内航鋼船運航業及び木船運航業最低賃金」及び「沖縄海上旅客運送業最低賃金」の改正に関する答申が行われました。それを受け答申どおりの改正を決定し、官報公示を行い、3月23日から改正発効されます。

船員の最低賃金は、最低賃金法の特例規定により、業種・航行区域・総トン数の区別に国土交通大臣又は地方運輸局長等により月額で決定されますが、沖縄管内では「沖縄内航鋼船運航業及び木船運航業」及び「沖縄海上旅客運送業」の二業種の最低賃金が設定されています。

上記二業種の最低賃金は、職員(船長や機関長等の役職のある者)、部員(職員以外)それぞれの職種毎に最低賃金額が設定され、改正される最低賃金は右側の表のとおりです。

なお、大臣決定の最低賃金は、昨年12月28日に改正されており、他の地方運輸局においても同様に年度内に改正が予定されております。

沖縄総合事務局長決定に係る船員最低賃金【改正予定】

業種別	職種等	最低賃金額	引き上げ額 (増加率)
沖縄内航鋼船 運航業及び 木船運航業	職員	月額	246,150 円 1,000 円 (0.41%)
		月額 (ただし、船舶職員養成施設のうち特定の養成施設の課程を修了した後の勤務期間が、当該課程ごとに定める期間に満たない者)*	229,700 円 1,000 円 (0.44%)
	部員	月額(海上経歴3年以上)	187,550 円 1,000 円 (0.54%)
		月額(海上経歴3年未満)	177,250 円 1,000 円 (0.56%)
沖縄海上旅客 運送業	職員	月額	243,050 円 1,000 円 (0.41%)
	部員	月額	181,600 円 1,000 円 (0.55%)

○上記の業種に適用する船舶の範囲(適用地域:沖縄総合事務局管内)

- 1 沖縄内航鋼船運航業及び木船運航業
国内各港間のみを航海する船舶のうち、平水区域を航行する船舶、沿海区域を航行区域とする総トン数 100 トン未満の鋼船、木船の船舶所有者
- 2 沖縄海上旅客運送業
旅客運送の用に供する船舶のうち、平水区域を航行区域とする船舶、沿海区域を航行区域とする総トン数 100 トン未満の船舶、100 トン以上の船舶でその航行区域が平水区域から当該船舶の最大速度で2時間以内に往復できる区域内に限定されている(限定沿海区域)船舶の船舶所有者

泊港で働く船員





公正取引委員会

 マスコットキャラクター

 「どっきん」

独占禁止法教室

学生向け 出前授業

中学校、高等学校、大学の授業に実務経験を積んだ職員を講師として派遣し、公正取引委員会の役割、独占禁止法の内容等を分かりやすく説明しています。

授業内容（例えば中学校の場合）

●キーワードを学習

市場経済、競争、独占、カルテルなどのキーワードを分かりやすく説明します。

●競争の必要性を学習

学生が企業の立場になってライバル企業と販売競争を行い、競争の必要性を学ぶゲームを行います。

●模擬立入検査・模擬事情聴取を体験

公正取引委員会の立入検査や事情聴取の寸劇を行います。

申込要領

下記「お問合せ先」までお気軽に御連絡ください。

※開催日時、授業内容等については調整いたします。



独占禁止法教室の様子

◆平成28年度の開催校

中学校	沖縄尚学高等学校附属中学校(那覇市)、糸満中学校(糸満市)、桑江中学校(北谷町)、安慶田中学校(沖縄市)
高等学校	西原高等学校(西原町)、那覇商業高等学校(那覇市)
大学	沖縄国際大学(宜野湾市)

キッズ向けコンテンツ



公正取引室では、出前授業のほかにも消費者を対象としたセミナー、商工会議所や商工会との懇談会、事業者団体等を対象とした独占禁止法、下請法などの説明会を随時開催しています。どうぞお気軽にお問い合わせください。



消費者セミナーの様子



商工会との懇談会の様子



下請法基礎講習会の様子

お問合せ先

総務部公正取引室 総務係 ☎ 098-866-0049 (直通)

～ 美ら島の未来を拓く～

沖縄総合事務局

<http://www.ogb.go.jp/>

広報誌【群星】に対する「皆様の声」をお待ちしています。

平成28年度における本誌の原材料調達・印刷・流通・廃棄に伴うCO₂排出量8.7t(227g/1冊)は、沖縄県内事業者が創出した国内クレジット(排出権)でカーボン・オフセットいたします。

